

⑫ 実用新案公報 (Y 2)

平3-24053

⑤ Int. Cl. 5

識別記号

庁内整理番号

②④公告 平成3年(1991)5月24日

A 01 K 87/08

6852-2B

A 01 K 87/00

D

(全3頁)

④ 考案の名称 トリガー付きキャスティングハンドルのグリップ

②①実 願 昭60-117022

⑥公 開 昭62-24668

②②出 願 昭60(1985)7月30日

④③昭62(1987)2月14日

⑦②考 案 者 大 村 隆 一 静岡県静岡市南町19番3号

⑦①出 願 人 富士工業株式会社 静岡県静岡市南町19番3号

審 査 官 滝 本 静 雄

⑥⑤参 考 文 献 実開 昭59-170463 (J P, U) 実開 昭57-28670 (J P, U)

実開 昭59-122067 (J P, U) 実開 昭55-104078 (J P, U)

1

2

⑦⑤ 実用新案登録請求の範囲

前手握り部と後手握り部とよりなり、且つ全長に亘り竿取付け孔を形成してなるトリガー付きキャスティングハンドルの後方グリップにおいて、後手握り部の軸芯は竿取付け孔の軸芯と同一位置に設け、前手握り部はリールシート直後において上方張り出し部を設け、後方に及ぶに従つて下方へ張り出した傾斜握り部を設けたことを特徴とするトリガー付きキャスティングハンドルのグリップ。

考案の詳細な説明

(産業上の利用分野)

本考案は釣竿用キャスティングハンドル、特に両手投げのトリガー付きキャスティングハンドルのグリップに関する。

(従来技術)

従来の両手投げのトリガー付きキャスティングハンドルのグリップとしては、グリップの軸芯が竿の軸芯、即ち竿の取付け孔の軸芯上にあるストレートグリップか、グリップの軸芯が竿の軸芯に対し手元に及ぶに従つて下向きに傾斜した所謂ピストル型グリップを延長した両手投げのものが公知である。(実開昭59-122067号公報第2図、第3図参照)。

(考案が解決しようとする問題点)

最近、両手投げのトリガー付きキャスティングハンドルにあつても、片手投げハンドルの場合の

ようにリールを横向きにして投げたいという要望があるが、従来のストレートハンドルでは第5図及び第6図に示すように中指、薬指及び小指の3本がグリップから離れてしまい、グリップ力が著しく低下し強く投げることができなかつた。またピストル型グリップでは前手のグリップは問題ないが第7図に示すように後手の握り部が前手の下側に入つてしまい、前者と同様に強く投げることができなかつた。

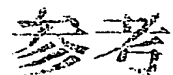
10 本考案者は従来の両タイプのハンドルを組み合わせることに着目し、トリガー付きキャスティングハンドルにあつてはリールを横向きにして両手で投げることができないという問題点を解決した。

15 (問題点を解決するための手段)

本考案は、前手握り部と後手握り部とよりなり、且つ全長に亘り竿取付け孔を形成してなるトリガー付きキャスティングハンドルのグリップにおいて、グリップの軸芯は竿取付け孔の軸芯と同一位置に設け、前手握り部はリールシート直後において上方張り出し部を設け、後方に及ぶに従つて下方へ張り出した傾斜握り部を設けたことを特徴とするトリガー付きキャスティングハンドルのグリップに係るものである。

25 (実施例)

以下、本考案の実施例を図面に基づいて説明する。



3

4

第1図において、両手投げのトリガー付きキャストリングハンドル1はトリガー2付きリールシート3とグリップ4とにより構成され、該リールシート3とグリップ4とはその接合端に形成された凹部及び凸部により凹凸結合され、またこのリールシート3とグリップ4には互いに連通する竿取付け孔5が形成され、グリップ4の竿取付け孔5の後端にはキャップ6が装着されている。

グリップ4には前手7の握り部4aと後手8の握り部4bとにより形成され、後手握り部4bの軸芯9は竿取付け孔5の軸芯10と同一位置に設け、前手握り部4aの軸芯11は後手握り部4bの軸芯9に対し後方に及ぶに従って下方へ張り出して設けることにより前手握り部4aの下面に傾斜握り部12を形成している。

尚、符号13は竿、14はリールである。

(考案の効果)

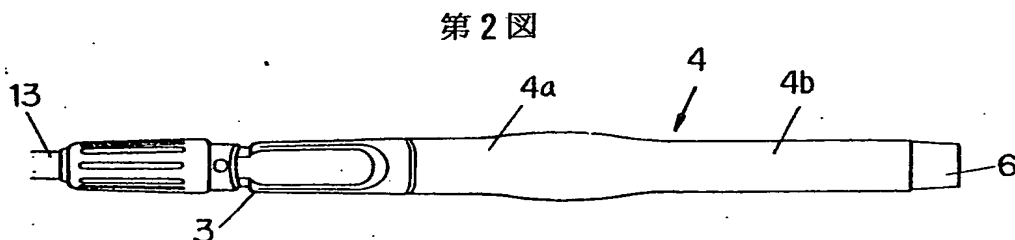
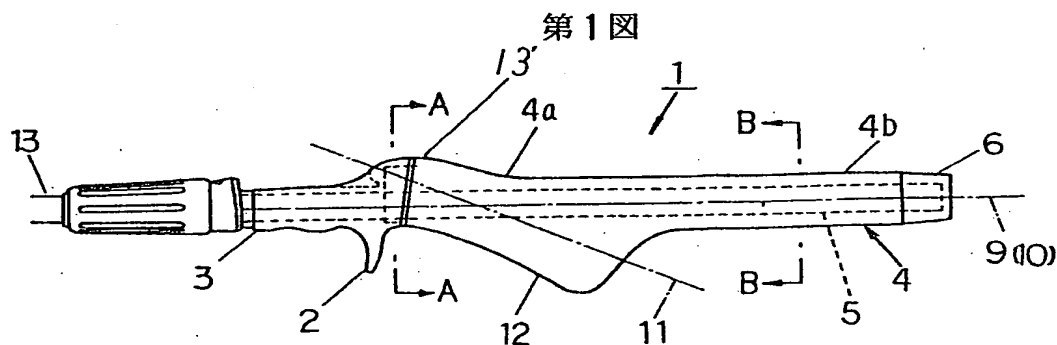
本考案は両手投げのトリガー付きキャストリングハンドルのグリップにおいて、後手握り部は所謂ストレートグリップであり、前手握り部はピストル型グリップ形状になっているので、このハンドルにリールを取り付けてキャストリングする場合、リールを横向きにしても、右手の中指、薬指及び小指の3本の指は傾斜握り部に係止され、ス

トレートグリップを握った場合のようにグリップから離れることがないので、前手はグリップを力強く握ることができ、他方後手は全体が傾斜したグリップの場合のように前手の下側に入ることなく、身体の前面に正しく位置させることができるので、両手で正確な力強いキャストリングができるものである。

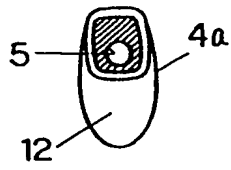
図面の簡単な説明

第1図は本考案の一実施例を示す側面図、第2図は同上平面図、第3図は第1図に示すA-A断面図、第4図は第1図に示すB-B断面図、第5図は従来のストレートグリップによるトリガー付きキャストリングハンドルの使用状態を示す平面図、第6図は第5図におけるC部の拡大平面図、第7図は従来のピストル型グリップによるトリガー付きキャストリングハンドルの使用状態を示す平面図。

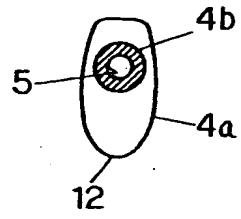
1……キャストリングハンドル、2……トリガー、3……リールシート、4……グリップ、4a……前手握り部、4b……後手握り部、5……竿取付け孔、7……前手、8……後手、9……後手握り部の軸芯、10……竿取付け孔の軸芯、11……前手握り部の軸芯、12……傾斜握り部、13'……上方張り出し部。



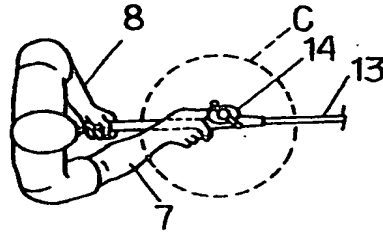
第3図



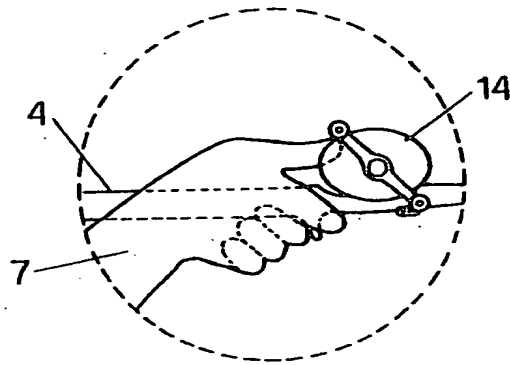
第4図



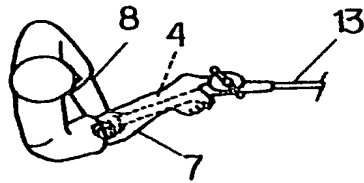
第5図



第6図



第7図



THIS PAGE BLANK (USPTO)